

EXHIBITION SCHEDULE

■ 休館日

月曜日(国民の祝日に関する法律に規定する休日及び特別展開催期間中等を除く)

年末年始(12月29日～1月3日)

※7月7日(金)、8日(土)、9日(日)は館内メンテナンスのため休館

2023年度 展覧会スケジュール

2023	4	春季特別展	2023年4.1(土) ▶ 5.14(日)	写真家が捉えた 昭和のこども
	5	企画展	2023年5.24(水) ▶ 7.2(日)	柿本人麿と明石 -歌・信仰・文化-
6	2023年7.22(土) ▶ 8.27(日)		安野光雅美術館コレクション 安野先生のふしぎな学校	
2023	7	夏季特別展	2023年9.9(土) ▶ 10.15(日)	明石藩の世界Ⅱ -明石藩の懐事情-
	8		2023年10.28(土) ▶ 12.3(日)	発掘された明石の歴史展 -明石の古窯とやきもの・瓦-
2023	9	企画展	2023年12.16(土) ▶ 2024年1.14(日)	古陶と絵画の名品 -平井コレクションを中心に-
	10		2024年1.27(土) ▶ 3.17(日)	くらしのうつりかわり展
2024	11	企画展		
	12			
2024	1	企画展		
	2			
2024	3	企画展		

INFORMATION

■ 開館時間

9:30～17:30 (入館は17:00まで)

※特別展開催時 / 9:30～18:30(入館は18:00まで)

■ 観覧料

大人200円 / 大学・高校生150円 / 中学生以下無料

※特別展は料金が異なりますので、詳しくはお問い合わせください

※20名以上の団体で2割引 / 65歳以上の方は半額 / 身体障害者手帳・療育手帳・

精神障害者保健福祉手帳・障害者手帳アプリ提示時、本人と介護者は半額

※シニアいきいきパスポートの提示で無料

■ レストラン

海鮮フレンチ まるせいゆ(文化博物館敷地内)

TEL:078-917-9797 定休日:月曜日(祝日の場合は火曜日に振替)

※詳しくはお問い合わせください

■ ギャラリー・大会議室利用

美術展・書道展・写真展などに利用できるギャラリー、講演会・

研修会などに利用できる大会議室の貸館を行っています。

※料金や使用手続については、ホームページをご覧ください、お問い合わせください。

○ギャラリー ※ギャラリーは半室利用ができません

区分		展示延長	床面積	天井高	パネル高
ギャラリー	半室	71m	178㎡	3.05m	2.6m
	全室	142m	356㎡		

○大会議室 収容定員 約100名(教室形式では80名)

お得な年間観覧券(ぶんぱくパスポート)を販売しています。

大人1,600円 / 大高生1,200円 ※有効期間:発行日から1年間
当館にて受付中

■ アクセス

電 車: JR神戸線、山陽電鉄「明石」駅下車

県立明石公園のお堀東側を北上、徒歩5分

自動車: 第二神明大蔵谷出口より南西へ10分

第二神明伊川谷出口(東行きのみ)より南へ10分

■ 駐車場

駐車台数:32台

1台1時間につき100円

(ただし、1時間未満の端数は1時間とします)

※駐車台数が限られるため、公共交通機関、又は近隣の有料駐車場(地図参照)をご利用ください。

※マイクロバス等でのご来館は、事前にお問い合わせください。



明石市立文化博物館

(指定管理者:小学館集英社プロダクション・鹿島建物共同事業体)

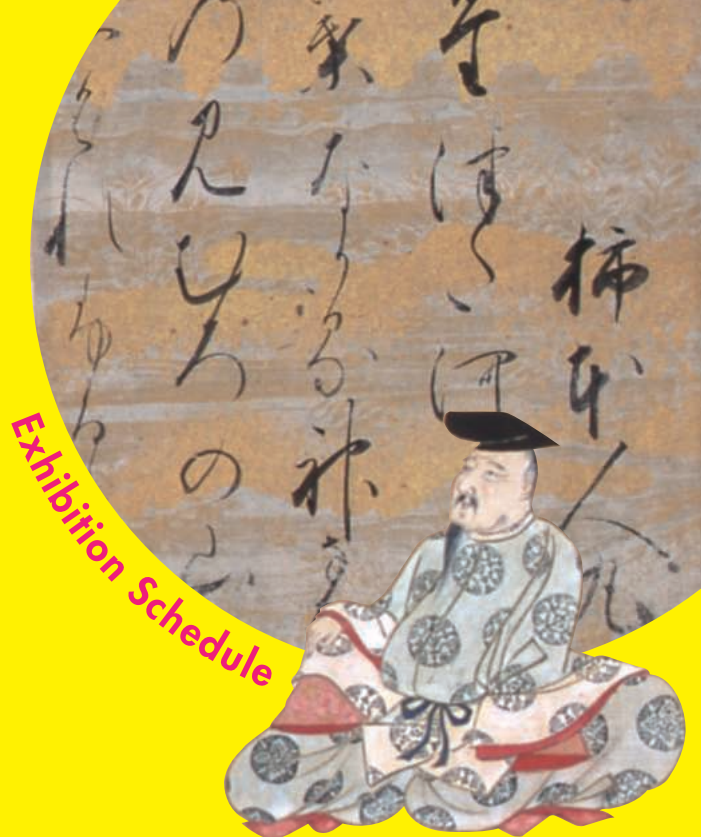
〒673-0846

明石市上ノ丸2丁目13番1号

TEL:078-918-5400

FAX:078-918-5409

<https://www.akashibunpaku.com/> ホームページ



2023年度
展覧会
スケジュール

2023.4
2024.3

明石市立文化博物館

展覧会スケジュール

当館は明石駅からほど近く、明石海峡を望む高台に位置しています。明石の歴史と文化を紹介する常設展示のほか、特別展や企画展などの展覧会を開催しています。

春季特別展 写真家が捉えた 昭和のこども

2023年 4.1⑤>>>5.14⑥ 会期中無休 18:30まで開館

戦争と戦後の復興期、高度経済成長期には、戦争により親を失ったり、家業の働き手として働かなければならなかったりと、この時代ならではの社会問題に直面したこどもたちがいました。街中の路頭に目を移せば、元氣よく遊ぶこどもたちの姿がありました。本展では、木村伊兵衛、熊谷元一、土門拳、植田正治、桑原甲子雄、濱谷浩、林忠彦、岩宮武二、芳賀日出男、長野重一、田沼武能ら日本の写真史に名を残す写真家が、触れ合いながらレンズ越しに捉えたこどもたちの姿を紹介し、昭和の歩みをたどります。



「コッペパンをかじる」熊谷元一 昭和28年

企画展 柿本人麿と明石 一歌・信仰・文化一

2023年 5.24⑥>>>7.2⑥ 月曜休館

奈良時代に活躍した柿本人麿は、万葉集に皇族をたたえる歌や死を悼む歌などのほか、明石に関する歌も残しました。江戸時代には人麿千年忌が盛大に行われ、朝廷から柿本神社に神号と神位が授与されました。本展では、明石の地に人麿を祀る由来や、天皇、戦国武将、明石藩主、庶民など身分を問わず信仰が広まっていった記録のほか、人麿千年忌の資料や人麿画、焼きものなどを展示し、千年を超えて人麿を信仰してきた人々のすがたをみつめます。



桜町天皇宸翰及一座短箱 (国重要文化財、月照寺所蔵)

夏季特別展 安野光雅美術館コレクション 安野先生のふしぎな学校

2023年 7.22⑤>>>8.27⑥ 会期中無休 18:30まで開館

画家 安野光雅氏(1926-2020)は、四方を山々に囲まれ城下町の風情がのこる島根県津和野で少年時代を過ごしました。独自の世界観をもつ絵本作品は、国際アンデルセン賞画家賞を受賞するなど国内外で高く評価され、装丁デザインや執筆活動など、その活躍は幅広い分野に及びます。本展では、画家として独立する前の教員時代に着目し、多彩なジャンルの作品を学校の授業科目に見立ててご紹介します。



「ふしぎなのり」[「はじめてであうすがくの絵本1」より 1982年©空想工房]

企画展 明石藩の世界Ⅺ 一明石藩の懐事情一

2023年 9.9⑤>>>10.15⑥ 月曜休館、但し9月18日、10月9日は開館

経済や産業が発達した江戸時代。出費がかさみ幕府や藩の財政は苦しくなります。そこへ度重なる災害やお手強い普請、將軍実子の養子問題、海防・長州征討、維新の動乱などにより財政難に拍車がかかります。新出の加嶋屋長田家などの豪商や富農層の古文書などから、明石藩の危機回避の様子をご紹介します。また、貨幣や藩札の実物資料を一堂に展示します。それらの流通の様子から貨幣経済の一端を感じ取っていただければ幸いです。



貨幣と藩札

企画展 発掘された明石の歴史展 一明石の古窯とやきもの・瓦一

2023年 10.28⑤>>>12.3⑥ 月曜休館

明石は良質の粘土に恵まれ、古くからやきものや瓦が盛んに焼かれてきました。市内でも古墳時代の須恵器を焼いた赤根川金ヶ崎窯跡や平安時代に平安京の寺などに運ぶための瓦を焼いた林崎三本松窯跡、明治時代から昭和時代にかけて明石焼陶器を焼いた窯跡など数多くの窯跡が発掘調査で見つっています。展示では、古墳時代から現代まで、それぞれの時代に築かれた窯跡と、そこで焼かれたやきものや瓦類を紹介します。明石の土で作られたやきものの数々をご堪能ください。



林崎三本松瓦窯跡

企画展 古陶と絵画の名品 一平井コレクションを中心に一

2023年 12.16⑤>>>2024年 1.14⑥ 12月29日～1月3日は年末年始休館 月曜休館、但し1月8日は開館

洋画材店を営んでいた平井昭夫氏より寄贈された貴重なコレクションとともに当館収蔵の名品を紹介します。古陶磁に魅せられ、やきものの蒐集を始めることとなった平井氏の初期の思い入れ深いコレクションから、高麗青磁や李朝白磁などの朝鮮陶磁、明時代の漳州窯で焼かれた「呉須手色絵花鳥文大鉢」をはじめとした中国陶磁器、ベトナム・タイなどの施釉陶器、古常滑焼など日本各地のやきもの他、初公開となる河鍋曉斎の「七福神図屏風」といった絵画作品も展示いたします。



呉須手色絵花鳥文大鉢 明時代

企画展 暮らしのうつりかわり展

2024年 1.27⑤>>>3.17⑥ 月曜休館、但し2月12日は開館

今では大きく様変わりした昭和時代の暮らしの様子を、当時の道具や写真などで振り返ります。昔の道具や遊びの体験もでき、知る世代にはなつかしい、知らない世代はわくわくする、昭和レトロが学べる展覧会です。※本展覧会は小学校の社会科・総合学習の参考展として、毎年多くの学校観覧でご利用いただいています。見学申込みは9月頃に開始予定です。詳しくはお問い合わせください。



火鉢

常設展・体験学習室

明石の歴史と文化を「自然環境と人々の暮らし」と題して、「明石のあけぼの」「大昔の明石」「織内への入り口・明石」「明石の焼き物」「明石の農業」「明石の漁業」「明石城と城下町」「のびゆく明石」の8つのテーマで紹介しています。また、体験学習室では、昭和の生活を学ぶことができます。